

2. ワークショップの感想から (抜粋)

- ・ 今日、14箇所まわってみてそんなに危険な所がたくさんあるなんて知りませんでした。今日調べてみて、変な人がたくさんいることを知ったので、気を付けて行動したいです。そのために、危険な場所にはあまり行かず、時間を守ろうと思いました。(子ども)
- ・ こんなに変態じけんがあるとは知らなかった。男の方がカツアゲとかひどかった。女じゃなくてよかった。集団で行動しようと思った。(子ども)
- ・ 静かで平和な学校であり、地域だと思っていたので、調査の結果には驚きました。今回ワークショップで廻ってみて、普段何気なく通り過ぎている場所も、立ち止まり見ることでいろいろな点に気が付くことができました。貴重な経験となりました。(母親)
- ・ どうして危険なのかすぐわかる所と、いくら考えてもわからない所があつて難しかった。(母親)
- ・ 今回、ワークショップに初めて参加してみて、参加する事によって知った事実が多くありました。やはり子どもたちが集まる場所での事件が多いようですが、公園などの樹木等の改善といっても、見通しの良い場所でも起きているので、地域とのつながりや警察の活動など、見直さなければならない点があると思いました。
建物や樹木等の改善などは、大都会の中ではとても難しい問題だと思うし、昔と違い現代は注意したり声をかけたりしただけで殺人が起きる時代になってしまい、大人も子どもも他人事には干渉しない生き方をしてしまいがちです。危険のない安全な生活を望んではいますが、大変な時代だと思います。ただ、それにつけても、このような活動をする事によって一人ひとりが意識を持っているという事だけでもプラスになったと思います。(母親)
- ・ 多忙なため、近所の方とのコミュニケーションが大事だと感じました。(母親)
- ・ 今回沢山の危険な箇所を廻って、自分で気付いた事は、江戸川区は緑が豊かと言われていますが、ただ無理矢理樹木を植えているイメージがありました。公園は高い木で周りを囲み、「ここは公園です…」と外からは中の様子が見えません。街灯にしても、樹木と一緒にの高さで照らしているのは葉っぱだけ…。明るさが遮られて

いました。

日中だから安心という事はなく、自分自身が心の片隅にいつも「気を付けなくっちゃ」と言い聞かせて、注意しなければと思います。でも、身近な所でこんなに子どもたちが被害にあっているのかと思うと、ショックでした。 (母親)

- ・全部を通してみると、公園などは木が多かったりしてかえってそれが壁の状態となり、見通しを悪くしてしまうような気がします。団地やマンションはどうしても死角になってしまう所が出来てしまって、声を出しても聞こえなく、逃げる場所もない状態が多いような気がしました。あと、通学路の見直しも必要な気がしました。

(母親)

- ・被害の発生場所になっている公園は、ほとんどが道路から公園の中が見えにくくとても大きい事に気が付いた。目隠しのような植木が目についた。

公団のマンションのエレベーターの設置場所がセキュリティーを考えない構造になっている。

駐車場というのは、見晴しが良く安全だと思っていたが、ワンボックスカーなどが並んで駐車していると、とても危険な事に気が付いた。 (母親)

- ・木や塀に囲まれて、外からはまったく中が見えない公園もあり、そういう場所に1人で行くことは確かに危険だと思う一方、全く危険だとは思えない場所もあり、犯罪はどんな場所でも起こるのだと思った。

ただ、まったく平らな街はありえないし、木がどんどん切られるのも寂しいと思う。マンションが多い分、公園も多い街だが、子どもが育っていくと、公園が使われなくなり、さびれた感じの公園も多かった。

臨機応変に、遊具をとりはずして、バスケットゴールやテニスのかべ打ちができるとか、個性的な空間づくりをしてはどうだろうか。 (母親)

- ・日曜日のお昼過ぎ、(1:30~2:00)頃、小島団地の周りを子どもと歩いてみたのですが、公園で遊ぶ子どもは居ないし歩いている人もいない。これだけの団地なのにすごく静かでびっくりした。公園があっても石垣や木などで囲まれてて、子どもが遊びには危険かなと思った。

夕方~夜は、見回りをすればいいと思う。これだけの事件があるのなら交番を団地内につくる方がよいと思う。 (母親)

- ・ワークショップに参加できて良かったです。普段考えずに通っている道、場所を子どもとそして他の保護者と歩くことによって、子どもの視線と大人の視線を確認で

きたこと。これからも、日々危険な場所かどうなのか？と考えていけると思います。
(母親)

- ・昼間歩いたが、同じ場所夜被害を受けた所はその時間帯に歩くと違うイメージとなろう。特に、街灯の位置、明るさはわからない。推定で明るければ、被害は少なくなるだろうとの場所も多い。

- ・公園の周囲の樹木は、下枝を切る。竹製のフェンスなど見通しが必要。危険箇所には掲示をする、建てるなども効果があろう。対策無しの場合も多い。(母親)

- ・なかなか家に着かなくて、ノドがかわいた。地図をもって探検しているみたいで楽しかった。

道に車や自転車がいっぱい止まって歩くのにじやまな時がある。(子ども)

- ・普段は通り過ぎてしまう場所も、改めて見回すと、危険な場所が多いことに気付きました。

美観や環境などに配慮して、街灯や街路樹は配置されていることが多く、安全はその次ぎになっているように思われた。

子どもの行動範囲は、大人が考えるよりも広範囲になっており、考えもおよばない所を探検することがあることに気付かされました。(母親)

- ・いつもなら通り過ぎてしまう場所も、気を付けて見ると危険な場所が多いのに気付きました。

西葛西はマンションや駐車場がひしめき合っている地区なので、死角が多く、子どもたちはいつも危険と隣り合わせでいます。特に低学年の子どもたちは、好奇心が強く、自ら狭い場所、暗い所へ入って行ってしまいます。危険な場所にいる子どもへは、声をかけたり、不審者を見つけたら通報するなど、地域住民の協力が不可欠だと思いました。(母親)

- ・茂みのある所は、引きずり込まれる事のないように、反対側の歩道を歩くようにする。(母親)